

市政報告 想いを「カタチ」へ

2026 7月号

毎日暑い日が続いておりますが、皆様お変わりありませんでしょうか。いつも温かいご支援をいただき、本当にありがとうございます。

先日七月二十八日には熊本県で震度七の地震が発生いたしました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く落ち着いた毎日が戻りますようお祈りするとともに、私たちの八千代市でも「もしも」への備えを改めて見直していかなければと、気を引き締めているところです。

この暑さです。水分補給とエアコンを我慢しすぎない

ことを合言葉に、皆様どうぞお元気でこの夏を乗り切ってくださいませ。

7月29日

会派 市民クラブ

おざわこうじ



北部エリアの交通不便地域の改善に向けて

柏市「カシワニクル」を視察して

先日、柏市の予約型相乗りタクシー「カシワニクル」の取り組みについて視察させていただきました。旧沼南町地域はバス路線が乏しく、その空白を埋める仕組みとして市が導入したものです。決まった時刻表や路線を持たず、予約に応じてその都度ルートを組み立て、同じ方向へ向かう方が相乗りしながらそれぞれの目的地へ向かう—いわば「バスとタクシーの中間」の公共交通です。



実際にお話を伺って強く感じたのは、この仕組みが「空気を運ばない」交通であるという点です。従来のコミュニティバスは、利用者がいてもいなくても決まった便を走らせるため、便数を確保しようとすれば赤字が膨らみ、赤字を抑えようとすれば便数が減って使いづらくなる、という板挟みに陥りがちです。予約に応じて動かす方式であれば、その矛盾からある程度自由になれます。予約から配車までを自動で行うシステムを用いることで、導入費用を大きく抑えている点も印象に残りました。

一方で、良いことばかりではないという率直なご説明もいただきました。一時間前までの電話予約が必要で、この「ひと手間」が高齢の方にとってはハードルになること。利用者が増えれば増えるほど車両を出さねばならず、必ずしも収支が改善するわけではないこと。既存のバス路線やタクシー事業者との役割分担も、丁寧な調整が欠かせません。「導入すれば解決する魔法の杖ではない」という担当者の言葉が、最も大切な学びだったと思います。

八千代市北部の交通不便地域への応用

本市に目を移しますと、阿蘇・米本・睦をはじめとする北部エリアは、まとまった住宅地と農地が点在する地形で、路線バスを高頻度で走らせるには需要が分散しすぎている地域です。ここに毎日決まった時刻でバスを走らせても、乗車人数が伸びずに廃止が議論される、という道をたどりかねません。柏市の事例は、まさにこうした地域にこそ適した処方箋であると受け止めております。

具体的には、北部エリアを一つの運行区域として設定し、区域内の乗降場所と、駅・病院・商業施設といった区域外の拠点とを結ぶ形が考えられます。買い物と通院という二つの目的地さえ押さえれば、生活の質は大きく変わります。予約についても、電話に加えてスマートフォンからも申し込める窓口を用意し、ご家族が離れて暮らす場合には代理で予約できる仕組みを併せて整えるべきでしょう。

あわせて申し上げたいのは、これは「免許返納を促す政策」とセットで考えるべきだということです。車がなければ生活できない地域で返納だけをお願いするのは、あまりに酷な話です。返す代わりの足を先に用意する。その順番を間違えないよう、議会の場で求めてまいります。まずは地域を限定した実証運行から始め、利用実績を検証しながら育てていく——そうした現実的な進め方を提案してまいります。

↓参考資料

予約型相乗りタクシー「カシワニクル」～沼南地域の移動にご利用ください～ | 柏市



※下段真ん中

房総かるた大会八千代予選が開催されました。歴史や名所・名産・名跡などが、カルタによって覚えられる内容となっております。八千代市政60周年に向け「八千代かるた」のリニューアルを推進していきたいと考えます。

日々の活動報告はコチラよりご覧ください

[おざわこうじ（オザワコウジ） | 政治家情報 | 選挙ドットコム](#)

追伸・・・厳しい暑さが続いております。お身体にはご自愛ください